



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

**佐賀整肢学園**

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

■発行：平成 29 年 6 月  
■発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園  
■発行者：理事長 中尾清一郎  
■編集：法人広報誌編集委員

# 学園タイムス

2017-6 Vol. **14**

Sagaseishigakuen times

社会福祉法人 佐賀整肢学園

佐賀の四季シリーズ

「春の松浦川河畔」

松浦川は唐津湾に注ぐ一級河川です。相知の山崎橋付近で敷木川が合流しますが、この風景は合流点の近くから唐津方面を眺望したものです。左手に桜と思われる薄紫色の花と土手に沿って広がる群生した菜の花が自然の豊かな相知の春を彩ります。土手沿いの道はサイクリングやジョギングに最適です。体に風を受けながら疾走すると自然との一体感を感じることができます。



巻頭言…2

新規採用職員紹介 3～5

事業所 TOPICS…6～7

タイムス特集…8

学園 FOCUS…9

局長随想 リレーコラム…10

ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…10

撮影：からつ医療福祉センター 濱崎雄平院長



## 発達障害と虐待

からつ医療福祉センター  
院長

濱崎 雄平

最初に大学病院での小児科研修医1年目が約3/4くらい終了した時期に主治医として担当した3歳10ヶ月の女児のことを記そうと思う。この子は1974年12月12日朝から意識レベルが低下しているとの訴えで、午後3時頃近所の小児科医院を受診した。このとき意識はなく、極度の徐脈と呼吸抑制があるため大学病院へ救急搬送された。主訴は意識消失、手足が冷たい、両足先の水疱であった。初診時の所見は小柄でやせ、栄養状態きわめて不良、低体温で昏睡状態、呼吸状態不良、心拍は18回/分程度、手足にチアノーゼがあり、顔と手足、背中に軽い外傷があった。血液検査では炎症所見はなく、脱水、低蛋白によると思われる軽い腎障害と肝障害があった。全身の骨のレントゲンで骨折は認められなかった。母親は「何を与えても食べようとしな」と訴えた。現在では日常茶飯にみられると言ってもよい典型的被害者児（ネグレクト）である。その時、まったくの知識と経験不足でもあったが、親から虐待を受けた幼児がいるとは考えも及ばなかった。米国で臨床トレーニングを受けたT先生の診断は、malnutrition due to battered child syndrome（虐待による低栄養）であった。米国の小児科学の教科書 Nelson's Textbook of Pediatricsにはすでに詳細な記載があった。その頃、「日本には battered child はない。あったとしてもきわめてめずらしい。米国ではなぜそんなことが頻繁に起きるのか」というのがまだ普通の考えであったように思う。

この子は入院後直ちに人工呼吸、酸素投与、輸液を行った。1週間後に意識は正常となり、赤痢食で食事を開始した。その時、空腹の犬が食べ物を見つけたときのようにガツガツと食べたのを見て驚いたのを今でも覚えている。次の食事から通常の幼児食にしたが、嘔吐・下痢などなく急速に栄養状態が改善し、1ヶ月後の1月13日には血清タンパクが4.8g/dlから7.8g/dlとなり、体重が3.5kg増加した。脱水の改善と共にヘモグロビンは一旦8.0g/dlに低下したが、退院時には10.8g/dlまで改善した。問題はこれからである。もちろん母親はネグレクトを認めることはなく家に連れて帰ることを譲らなかつた。父親は全く頼りにならず、公的な支援のための法律と仕組みが不十分だったため、

祖母と父親の弟に連絡をつけて小児科の神経再来に2週間1度ずつ連れてくることを約束させて帰宅させた。その後は研修医である私の手から離れてしまったが、次に聞いたのは他病院に死亡状態で搬送されたということと、その後母親が殺人罪で有罪になったということである。当時理解できなかったのは、この子は3人兄弟の真ん中で、上下の子供はふつうに育っていて、この子だけがこのような状態だったことである。1ヶ月間のみの病棟での関係だったので、正鵠を射ているかどうか自信はないが、この子は知的な発達はやや遅れ気味で、コミュニケーションがとりにくく、幼児らしくなっていくという印象に乏しかったような気がした。今でいう発達障害のスペクトラムに入る子供だったのだろう。母親は上下の子どもとは違う育てにくさにはらたち、頼りにならない夫、経済的苦しさの中でひとり孤立して悩んでいたのではないかと思う。この時代すでに autism（自閉症）という言葉は小児科でも普遍的であったが、いわゆるカーナー博士が1943年に報告した中核群のことを意味しており、スペクトラムという概念は乏しかった。子どもが自閉的であっても、このような状態に陥るかどうかは母親の柔軟性や母子を取り巻く周囲の環境に依存する。このような母子の支援は、保育（生活）・教育・医療3つの分野からの包括的な支援が必要であることが強調されているが、現実には不十分な状況である。特に育児は今でも母親に過重な負担がかかっており、特に経済的に苦しい家庭に著しい傾向がある。定型発達の子は母親に大きな問題がなければ何とか家庭で対応できるだろうが、発達障害の傾向を有する子どもではその子に応じて保育・教育・医療のスペシャリストが連携し、かつ支援のための社会的リソースを動員して対応する必要がある。

2018年4月からからつ医療福祉センターでは、学童以上が対象ではあるが住居・学校・病院機能を併せ持つ児童心理療施設を開設する。できることには限界があると思うが、43年前に主治医として対応したこの女児、母親、その母親を殺人犯として取り上げられた2人の幼い兄弟のことを思うと、このような事業に微力ながらも携われる機会を得たことは幸運だと思っている。



## 新採職員紹介

今春は66名の新規採用職員を迎え、4月3日に中尾清一郎理事長より辞令が交付されました。また、新規採用職員を代表して、こども発達医療センターの池田千明さんが暫いの言葉を述べました。新たな仲間を加え、法人全体で、職員は約900名になりました。(4月1日現在)

平成29年度新規採用職員辞令交付式の様子(平成29年4月3日)

### 暫いの言葉


私たちは、時代の要請を的確に把握し、総合力を高めて医療・福祉サービスの提供に、先進的かつ積極的に取り組みます。私たちは、利用者とその家族の思いをわが思いとして、利用者の明るく、充実した暮らしの実現に努めます。私たちは、医療・福祉の専門家としての誇りと熱意を持って、常に自己研鑽に努め、利用者の処遇向上を図ります。私たちは、地域の医療福祉の拠点施設として、その機能と役割を十分に発揮できるよう、地域社会との連携と交流促進に努めます。



**こども発達医療センター**  
**池田 千明**  
生活支援員  
第2療育課



**こども発達医療センター**  
**松尾 圭子**  
生活支援員  
在宅支援課



**こども発達医療センター**  
**小川 真仁**  
生活支援員  
第2療育課



**こども発達医療センター**  
**定松 穂大**  
生活支援員  
西棟療育課



**こども発達医療センター**  
**笹本 卓月**  
生活支援員  
第1療育課



**こども発達医療センター**  
**川島 聡美**  
保育士  
総務課



**こども発達医療センター**  
**江崎 大志**  
保育士  
第1療育課



**こども発達医療センター**  
**釘嶋めぐみ**  
保育士  
第2療育課

 こども発達医療センター <b>島 麻香</b> 看護師 第2療育課	 こども発達医療センター <b>福島 悦子</b> 看護師 第1療育課	 こども発達医療センター <b>松石 麻矢</b> 看護師 整形外科	 こども発達医療センター <b>木室美智子</b> 看護師 第2療育課
 こども発達医療センター <b>久米 明子</b> 看護師 第2療育課	 こども発達医療センター <b>高橋 鮎美</b> 看護師 第3療育課	 こども発達医療センター <b>城戸小百合</b> 管理栄養士 医療課	 こども発達医療センター <b>加賀良健太</b> 理学療法士 理学療法科
 こども発達医療センター <b>吉富佐央里</b> 作業療法士 作業療法科	 こども発達医療センター <b>岡本 愛美</b> 言語聴覚士 言語療法科	 こども発達医療センター <b>林 沙織</b> 言語聴覚士 言語療法科	 こども発達医療センター <b>出口久美子</b> 臨床心理士 言語療法科
 こども発達医療センター <b>高柳 美佳</b> 臨床心理士 言語療法科	 こども発達医療センター <b>坂井 佑衣</b> 事務員 総務課	 オークス <b>有村 史也</b> 準総合職 在宅サービス課	 オークス <b>武田佑三子</b> 生活支援員 在宅サービス課
 オークス <b>山北 由希</b> 生活支援員 在宅サービス課	 オークス <b>高森 幸枝</b> 生活支援員 入所サービス課	 オークス <b>千布二三高</b> 生活支援員 入所サービス課	 かんざき清流苑 <b>蒲原 拓也</b> 介護士 入所サービス課
 かんざき清流苑 <b>山口 美枝</b> 介護福祉士 入所サービス課	 かんざき清流苑 <b>大石 恭子</b> 介護福祉士 入所サービス課	 在宅サポートセンター かんざき清流苑 <b>森園 佳子</b> 介護福祉士 在宅サービス課	 からつ医療福祉センター <b>長門 兼矢</b> 理学療法士 リハビリテーション課
 からつ医療福祉センター <b>久保 琢也</b> 作業療法士 リハビリテーション課	 からつ医療福祉センター <b>反頭 里奈</b> 言語聴覚士 リハビリテーション課	 からつ医療福祉センター <b>太田黒香奈</b> 看護師 アルトン看護生活課	 からつ医療福祉センター <b>本山 安孝</b> 生活支援員 アルトン看護生活課
 からつ医療福祉センター <b>中島 留美</b> 生活支援員 アルトン看護生活課	 からつ医療福祉センター <b>小林 幸子</b> 生活支援員 アルトン看護生活課	 からつ医療福祉センター <b>吉田 有希</b> 生活支援員 アルトン看護生活課	 からつ医療福祉センター <b>山下 広美</b> 生活支援員 アルトン看護生活課
 からつ医療福祉センター <b>山崎 幸子</b> 生活相談員 アルトン総合相談室	 からつ医療福祉センター <b>二宮 幸代</b> 医療事務員 アルトン総務課	 からつ医療福祉センター <b>立川 沙織</b> 生活支援員 久里双水園入所サービス課	 からつ医療福祉センター <b>吉田 正子</b> 生活支援員 久里双水園入所サービス課
 からつ医療福祉センター 在宅事業部 <b>宮原 誠歩</b> 児童指導員 児発センター課	 からつ医療福祉センター 在宅事業部 <b>長嶋 悠</b> 保育士 児発事業課	 からつ医療福祉センター 在宅事業部 <b>谷脇 彩</b> 保育士 児発センター課	 からつ医療福祉センター 在宅事業部 <b>豊増 愛菜</b> 保育士 児発センター課



からつ医療福祉センター  
在宅事業部

**岩永 鮎美**  
事務員  
児発センター課



からつ医療福祉センター  
在宅事業部

**山口 未佳**  
事務員  
児発センター課



からつ医療福祉センター  
在宅事業部

**梶山 由希**  
事務員  
児発センター課



からつ医療福祉センター  
在宅事業部

**平野 典子**  
事務員  
児発センター課



からつ医療福祉センター  
在宅事業部

**山口さゆり**  
事務員  
児発センター課



からつ医療福祉センター  
在宅事業部

**岡村可奈子**  
事務員  
児発センター課



からつ医療福祉センター  
在宅事業部

**田中 亮平**  
事務員  
児発センター課



糸島こどもとおとなの  
クリニック

**坂本 香**  
理学療法士  
リハビリテーション課



糸島こどもとおとなの  
クリニック

**伊藤由美子**  
作業療法士  
リハビリテーション課



糸島こどもとおとなの  
クリニック

**塚原 桂子**  
言語聴覚士  
リハビリテーション課



糸島こどもとおとなの  
クリニック

**森 架月**  
理学療法士  
リハビリテーション課



糸島こどもとおとなの  
クリニック

**森 健朗**  
理学療法士  
リハビリテーション課



糸島こどもとおとなの  
クリニック

**松本 奈々**  
理学療法士  
リハビリテーション課



糸島こどもとおとなの  
クリニック

**假屋 千晴**  
理学療法士  
リハビリテーション課



糸島こどもとおとなの  
クリニック

**原口 琴羽**  
作業療法士  
リハビリテーション課



佐賀向陽園

**有岡恵里菜**  
生活支援員  
入所サービス課



居宅介護支援センター  
わいわい

**清水真奈美**  
訪問介護員  
在宅サービス課



居宅介護支援センター  
わいわい

**古賀和香子**  
介護職員  
在宅サービス課

## 新採職員 からの コメント

### こども発達医療センター 生活支援員 池田 千明

辞令交付式では新規採用職員全員の思いを胸に、誓いの言葉を述べさせていただきました。それから早くも数ヶ月が経とうとしています。

これまでの学生生活から一変し、初めて飛び込んだ福祉の世界で戸惑いも多くあります。しかし多くの先輩方に教えていただきながら、利用者の方の生活支援に努めています。

これからは、利用者の方々とそのご家族、地元である金立に貢献し、「日々成長」を目標に、自分の可能性を広げていきたいと思えます。

### オークス

準総合職 有村 史也

オークスで働き始めて数ヶ月が過ぎました。これまで大学の授業や実習等で介護や関わり方について学んできましたが、実務を通して利用者の方々が様々な個性やニーズを持ち一人一人支援方法が違うことを知り、先輩方にご指導頂く毎日です。これからオークス職員として、利用者の方に安心し、楽しんでサービスを利用して頂けるよう、利用者の方と積極的に関わり、職員の皆さんからの協力を頂きながら、一日でも早く一人一人に応じた支援方法を身につけていきたいと思えます。

今後ともご指導よろしくお願いいたします。

### かんざき清流苑

介護士 蒲原 拓也

正規職員になった事でこれから自分の知らない知識や技術を学ぶ機会が増えていくと思えます。その機会を活かしてさらに成長できるように頑張りますのでご指導のほどよろしくお願い致します。

また、趣味は運動をすることで、佐賀整肢学園のソフトボール部に所属しており、皆さんと楽しく活動をさせていただいています。今年からゴルフを覚えようと思っており、ゴルフを通して沢山の方々と交流ができればと思っています。

### からつ医療福祉センター

理学療法士 長門 兼矢

からつ医療福祉センターで働き始めて数ヶ月が経ちました。研修期間を終え、現在、リハビリ業務を行っています。知識や技術面で未熟な点が多く、先輩方や同期の方に指導、アドバイスをいただきながら業務を行っています。利用者の方々と関わったり、活動に参加し楽しませてもらっている姿を見ると、もっと勉強して、よりよい援助を行いたいという気持ちが強くなりました。

今後は、利用者の方やそのご家族の思いに寄り添い、熱意をもって援助を行ってまいります。ご迷惑をかけることもあると思えますが、精一杯頑張りたいと思えますので今後ともご指導よろしくお願い致します。

### 居宅介護支援センターわいわい

訪問介護員 清水真奈美

わいわいの訪問介護事業所に勤務して、はや数ヶ月が経ちました。最初は、毎日不安と緊張の連続でしたが、利用者の方からいただく嬉しい言葉や笑顔により緊張感が和らぎました。

訪問介護は、1対1のサービスを行いながら、より深い観察力が必要となるサービスであり、とても難しいと感じましたが、先輩方の技術を受け、個々の利用者の方に寄り添うサービスを行えるように日々努力をしてまいります。

利用者の皆さんからいただく感謝の言葉を励みに、笑顔で明るく一生懸命頑張りたいと思えます。



しみず園は多久市にある介護施設です。佐賀県内に2カ所しかない介護施設間で、利用者の方の親睦を深めることを目的に年1回、交流会を実施しています。しみず園と日の隈寮を持ち回りで行っており、今年は日の隈寮での開催となりました。

交流会のために、利用者の方は何度も踊りの練習を重ねられました。しみず園からはリズムダンスをご披露いただき、日の隈寮からは日舞と、ポッキーのCMでお馴染みの「シェアはびダンス」を披露しました。曲に合わせて手拍子をされたり、口ずさまれたり鑑賞者も盛り上がりました。会の盛況に加え、出演された利用者の方は日頃の練習の成果を発揮することができ、充実感を得られた様子でした。また、レクリエーションの際には、しみず園の方と会話を交わしながらゲームに参加するなど、利用者同士交流を深めておられました。毎年恒例の行事のため、顔見知りの方も多くおられるようで、「元氣しとったね。」と1年ぶりの再会を喜ばれていました。(橋本 早帆)

3月25日、からつ医療福祉センター開園記念パーティー・卒園式が行われました。生活介護では、平成26年11月より手芸や陶芸の生産活動を始め、生活介護利用中に1回30分程度、アクセサリーや小物の作成、完成した商品の値札付け、袋に入れる作業をしていただいています。からつ医療福祉センターで行われる行事の際に販売を行い、利益分を工賃として、生産活動に参加された利用者の方にお支払いしています。今回も、開園記念パーティーや卒園式に来られたご来賓、利用者のご家族の方や職員向けに販売を行いました。今回は定番商品のくすみボタンで作ったヘアゴムやマグネットに加え、新たに、子どもさん向けにガーゼで作ったマスクやきんちゃく袋、レッスンバック、がま口の小物入れなどの布小物や本皮で作ったキーホルダーを作成しました。販売当日は多くの方に来ていただき、完売する商品もあったほど好評でした。また、「お弁当箱が入る巾着を作ってほしい。」「男性向けの商品があったらいいな。」などリクエストや要望をいただき、次回、製作する商品の構想を練ることができました。今年度も、利用者の皆さんとアイデアを出しながら生産活動を行い、楽しく生活介護を利用していただけるよう努力していききたいと思います。(波多 由香里)



かんざき清流苑では、3月28日に水害を想定した避難訓練を実施致しました。施設の隣には城原川が流れており、これからの梅雨や台風時の豪雨による水害を想定した訓練を行っています。

豪雨により城原川の水位がある一定にさしかかると、防災委員会が招集され、避難の有無等を検討します。実際過去に2回ほど、市の指定避難所に避難を行った経緯からこの訓練は開始されました。現在、隣接の同一法人施設のかんざき日の隈寮が、神埼市の指定避難所になっています。

避難方法は、雨具を着て道路に行く方法と、バスに誘導し避難する方法があり、毎年交互に行っております。今回は雨具を使用し、車いすを押して道路に行く方法を行いました。安全とスピーディさを目標に訓練を実施し、利用者の方約50名

程参加していただきました。かんざき日の隈寮の協力もあり、無事に30分程で避難を終えることができました。

利用者の方からは、「これで何があっても安心だね。」「あんた達に任しとけば安心ばい。」とお声をいただきました。

今後も、利用者の方の安全を考え防災対策に取り組んでいきます。(岡田 透)



# 事業所 TOPICS

(2月～4月)

## 児童会・自治会役員任命式

4月

こども発達医療センター



当センターには、第1病棟に入所する児童で活動する児童会と、第2病棟・西棟それぞれの病棟で活動する自治会があり、今年も4月6日に、平成29年児童会・自治会役員任命式が執り行われ、新たに9名の役員が任命を受けました。西棟では、任命を受けた会長、副会長、書記の3人を中心に、西棟の全利用者を対象として、週1回、職員1名参加で話し合いを行い、利用者の方が色々な意見を出し合い、月目標・週目標・週番を決めていきます。職員はあくまでも進行役として参加しています。

その他に、翌月のおやつ希望等の話し合いを行い、挙手による多数決をとって内容を決定しています。自治会は、①自分の考えを意見として出し合う、②他の人の意見を聞く、③みんなで協力する、の3つの方針としており、参加した利用者の皆さんは、誰でも自分の意見を発表でき、その中でいろいろな要望事項の検討も行っていきます。自治会の時間が近づくくと、自主的にホールに集まって来られ、自治会を楽しみに待たれており、積極的に自分の意見を話されています。今後もこの自治会を活用し、自分の思いや考えを出し合い、有意義で活発な会になるように、職員も支援していきたいと思っています。(松尾 弘子)

## 開園 20 周年記念式

4月

オークス

4月15日、開園20周年記念式を開催いたしました。オークスは平成9年4月に開園し、4月で20周年という大きな節目を迎えることができました。

当日は午前中に式典、午後から記念祭を開催しました。

式典の待合室では、過去20年の写真中心としたパネルを準備しました。開所当時の写真を見て、利用者の皆さんや来賓の方々は、「若いねー。」「懐かしいね。」と20年を想い返されていました。

記念祭は、天気にも恵まれ、20周年の感謝を込めて、出店やアトラクションを準備しました。たくさんのメニューの中から、出店の食事を楽しまれ、皆さまに笑顔になっていただけたかと思えます。

ご家族や地域住民の方々、たくさんの方に参加いただき、利用者の皆さんの笑顔がたくさん見ることができた素敵な一日となりました。(佐藤 信仁)



## 祝 百寿

4月

佐賀向陽園・わいわい



佐賀向陽園に5年前に入所されました森田キク様が今年で100歳を迎えられることになり、佐賀整肢学園に経営移譲後、当園では初めての100歳になられる利用者となります。実は佐賀向陽園も、前身の佐賀養老院が大正6年に創立されてから、今年の10月で100年となり、改めて100年と言う重みが伝わってきます。

長寿の祝書にご家族が手作りされた「百寿(ももじゅ)」にちなんだ桃色のちゃんちゃんこを羽織られて、ご家族とともに素敵な時間を過ごされました。ご本人も「長生きして本当によかった」と、とても感激されていました。

職員にも気軽に声をかけられて、トンチのきいた昔話など、お話も大好きで、いつも周りにはたくさんの笑顔があふれています。その反面、時には叱咤激励のお言葉もいただくこともあり、身の締まる思いでその言葉を受け止めています。

長生きの秘訣についてもお聞きしたところ「そがん、たいした事しらんよ。」と笑顔で話されていたましたが、その笑顔こそが長生きの秘訣ではないかと思えました。

百寿のお祝いを申し上げると共に、これからも楽しい日々を過ごしていただけるよう精一杯支援させていただきたいと思っています。(鶴崎 紋久)

# タイムス特集

平成28年度の「学園タイムス」は、Vol.11～13を  
発刊しました。職員から応募のあった表紙写真を振  
り返ります。

表紙の写真は、平成27年度より年度ごとにテーマを決め、職員より公募しています。平成28年度のテーマは「佐賀の史跡シリーズ」でした。公募2年目ということもあり、前年度をはるかに上回る101枚の応募がありました。編集委員による厳正な選考の結果、vol.11は「川上峽鯉のぼり」、vol.12は「筑後川昇開橋」、vol.13では「祐徳稲荷神社」が採用されました。写真が採用された職員には、後日、記念品を贈呈させていただきましたので、ここでお知らせいたします。

平成29年度のテーマは「佐賀の四季」。発刊の時期に合わせて春夏秋冬の写真を公募していきます。公募のチャンスは年4回！職員の皆さん、ぜひご応募ください。採用された方には、記念品を贈呈させていただきます。編集委員も、発刊が遅延しないように努力していきます！



からつ医療福祉センター  
久里双水園 入所サービス課 生活支援係  
西村さん



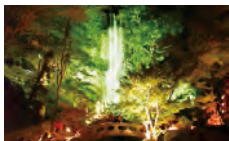
こども発達医療センター  
西棟療育課 看護係  
家永さん

## 『佐賀の史跡シリーズ』その他の応募写真（一部）

ご応募ありがとうございました！



見返りの滝



清水の滝



多久聖廟



武雄温泉楼門



唐津城



浜崎祇園

ご感想やお問合せ、応募先、タイムス特集の  
ご要望、学園 FOCUS の自薦他薦は、各事業  
所の編集委員までどうぞ

- 法人事務局
- こども発達医療センター
- オークス
- かんざき清流苑
- からつ医療福祉センター
- かんざき日の限寮
- 佐賀向陽園・わいわい

田中 邦典 遠田 佐衣  
林田 五月  
中原 健太  
蒲原 麻里  
富永 貴子 大田加代子  
橋本 早帆  
鶴崎 紋加

編集委員一同



# 学園 FOCUS

佐賀整肢学園で活躍する様々な人に焦点を当てる「学園 FOCUS」。

今回は、こども発達医療センターやオークスの行事の際に花を活けておられる大島京子看護部長へ FOCUS します！華道を始められたきっかけから現在に至るまで、包み隠さず語っていただきました。

**Q** どのようなことをきっかけに生け花を始められたのですか？花嫁修業でしょうか？

**A** 父の趣味が骨董品で、実家の床の間に飾ってありました。お正月になると、床の間の花瓶に、黒絵羽織の着物姿の先生がお花を活けに来られていたのを覚えています。その姿を見ながら、母に「お茶の入れ方とお花の活け方くらいは覚えとかんば。」と言われたのがきっかけです。19歳でした。そこから、草月流の岡部先生に付いて、習い始めました。お茶もちょっと通ったのですが、行く度に先生に怒られるので続きませんでした(笑)。今となっては、習ってれば良かったなと思います。

結婚や出産で一時期はお花を辞めていましたが、昭和58年に、椎間板ヘルニアで入院していた際、窓の外の雪景色とそこから見える松の木を見て、「あ〜、あそこに百合とか薔薇を加えて活けてみたい。もう一度お花をしたい。」と思い、退院後から再度通い始めました。5年前前、岡部先生が病に伏されてからは、先生からのご紹介で前田星崩先生の元へ通い始め、現在に至ります。

**Q** 度々センター内でお花を活けられている姿をお見かけしますが、お花はどのような機会に活けられていますか？

**A** 行事の際に頼まれることもあります。こどもセンター内には12カ所ほどスペースがありますので、なるべく絶やさないようにしています。全部に活けて回ると2時間くらいかかりますが、お花が無いと利用者さんが心配なさるので(笑)。活けるときには、華やかでありながらも凛としたものを感じられるよう心がけています。活けた後も気になって、次の日に手直しする事もありますよ。あとは、オークスの利用者さんへの手ほどきを、岡部先生と一緒にしていたこともあり、現在は私だけで月に1回行っています。それと、年1回は花展に作品を出しています。



おおしま きょうこ  
大島 京子さん

こども発達医療センター  
看護部長

**Q** 長年生け花を続けておられますが、お花の魅力はどういったところにあるのでしょうか？

**A** 草月流のことは「花はいれば人になる」というものがあります。1本の花でも、捨ててしまえばゴミですが、活ければ人に喜んでもらえる物にもなる。生きる気というか…自分が力を注いだ分、応えてくれるところが魅力かな。利用者さんにも「ここに来てお花を見るのが楽しみ。」とか「お花を見て気分がしゃんとした。」と言ってもらえるのが活力になります。でも今だに、活けた花の写真を先生に見てもらってもなかなか100点はとれません。どれだけやっても飽きない奥深さがあります。

**Q** 最後に、今後の展望などあれば教えてください！

**A** 私の目標は、前を通る人の足を止めるような花を活けることです。自分がしたいから始めたので人に教えようという気は無かったですけど、これから先も、センター内に花のある風景が続いてほしいと思うので、職員の中で興味がある方がいらっしゃったら、お伝えしていこうと思います。



昨年から開始された一連の社会福祉法人制度改革は、改めて当法人の過去を振り返り、未来への展望、将来像を描く好機となすべきではなからうかと考えている。

このたびの制度改革は、社会福祉法人の公益性・非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に対する説明責任を果たすとともに、地域社会に貢献するという社会福祉法人本来の在り方を徹底することを目的として、社会福祉法人に対して次のような取組を行うことを求めている。

まず、第一に、社会福祉法人の経営組織について、役員、理事会、評議員会の権限・責任に係る規定を整備し、議決機関としての評議員会の設置を義務付けるとともに、一定規模以上の社会福祉法人に対して、会計監査人による監査を義務付けることなどによりガバナンスの強化を図る。

また、定款、貸借対照表、収支計算書、役員報酬基準を公表対象とし、閲覧対象書類の拡大と閲覧請求者の国民一般への拡大により、事業運営の透明性の向上を図る。

さらに、「財務規律の強化」のために、役員報酬基準の作成と公表等、純資産の額が事業継続に必要額を超える法人に対する既存事業の充実に及ぶ事業の実施に関する計画の作成等の義務付けを行うとともに、社会福祉法人が、社会福祉事業又は公益事業を行うために、日常生活又は社会生活上支援を要する者に対し無料又は低額の料金を福祉サービスを提供する機会を確保すると規定されている。

今回の制度改革は、これまで春風胎動の環境にあった社会福祉法人を、一転して寒風吹きさらす環境下へ引き出すものと思われるが、当法人においても、今後「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律強化」「地域における公益性の取組を実施する責務」に向け、法人を挙げて取り組んで行くこととしている。

当法人は、当初は財団法人として昭和34年8月設立認可された。その設立に当たって発せられた「佐賀県肢体不自由児施設設置趣意書」には、当時の状況について「身体障害児中の6~7割を占める肢体不自由児の増加に伴い、諸種の社会福祉施設、特に児童福祉、特殊教育等の対策のうちでは、最も遅れていると言われ、これら薄暮の児童たちについては、まことに悲しむべき状態にあると申さねばなりません。」と記され、続けてこの問題の緊急性に鑑み、本施設建設の早期実現を期し、此の趣、財団法人佐賀県肢体不自由児施設設置委員会を設立し、施設建設の第一歩を踏み出さんとするものであります。…本法人における本施設の建設は、全国約10万、本県約2600の重度肢体不自由児にとっては一大福音と申すべきもので、この完成は本県肢体不自由児福祉事業の飛躍的發展への画期的事業であり、薄暮、不遇の手供して、将来への明るい希望と幸福がもたらされることを確信する次第であります。」と述べられており、法人設立に関わった先人達の、障害福祉にかける崇高な想いが込められた趣意書となっている。

社会福祉法人佐賀整肢学園は、法人設立から57年を迎えようとしているが、昭和26年の社会福祉法人制度改革創設以来の大改革の渦中において、いま一度佐賀県内の肢体不自由児を救済するという先人の熱く崇高な想いを反響し、原点に立ち返って、法人の責務となった地域貢献事業等の制度改革に積極的に取り組んで行きたいと考えている。

(寺崎 敏光)



在宅サポートセンターかんざき清流苑  
在宅サービス課  
デザイナー係 リーダー

蒲原 麻里

学生時代、福岡の大学に通い博多駅でアルバイトをしていました。そこでは、日々目まぐるしい程たくさんの人達と接し、お客様の中には笑顔や会話を返してくれる人、無表情な人、無視をする人などたくさんの方がいました。せかせかと歩くサラリーマンやレジ待ちにイライラしている人、携帯電話ばかりを見て目を合わせてくれない人達は、もちろん私の接客にも興味を示してくれませんでした。しかし私は思いました。「レジが終わるまでにこの人たちを必ず笑顔にさせたい!」と。…と云っても、私にはモノマネをしたり何か芸があるわけではありません。そこで思いついたのが「笑顔の連鎖」でした。こちらが笑っていただけると少しは微笑みでくれるはず! そう思い、それまで以上に笑顔で接客するように心掛けました。なかなか笑顔にならない中年の男性やクレームばかり言う女性には手こずりましたが、次第に笑顔になっていくお客様を見ると、心の中で「やった!」とガッツポーズをとり、また私自身が更に笑顔をもらい、優しい気持ちになった事を今でも思い出しています。

現在は、生活相談員としてたくさんの方と接する仕事をさせていただいています。利用者の方やその家族の思いに寄り添い、少しでもみなさんの笑顔を引き出せるよう、私自身も日々笑顔を忘れない、楽しい時間をみなさんと過ごしていけたらと思っています。【時間がかかっても笑顔は連鎖する!】私はそう信じています。

NEXT...佐賀向陽園のあの人にパトタッチ!!

平成 29 年 2 月 ~ 平成 29 年 4 月

- 協力ボランティア**
- 【子ども】 親和会様 整肢学園友会の会様 までしこの会様
  - 【オークス】 西九州大学社会福祉学科学科 北陵高校様
  - 【清流苑】 オカリナ結核 ナーア沖縄様 サポートア事業棟 三味線金剛会様 山崎節子様(日舞) 佐賀いわくクラブ様 ヒューマンドレミ様 若杉会様 音楽愛好会様 ヒーアオカレ・ナニフラスティオ様
  - 【からつ・糸】 山田主権(バウ教室) 川打信子様(書道教室) 加藤万里子様(民謡教室) 田村耕二様(絵画教室) 無淨山正様(陶芸教室) 辰野典由美様(手芸教室) (※) フレスコ福岡様
  - 【日の隈】 静净会様 山崎節子様(日舞クラブ) 三好富美子様(生花クラブ) 久保田美保様(ヨガ教室) 西九州大学ボランティア様 鶴の会様
  - 【向・わ】 三味線金剛会様 佐賀少年刑務所様 金立町社会福祉協議会様 裁縫ボランティア様

- 施設見学来訪**
- 【子ども】 医療福祉センター聖コゼフ園 6名様 国際医療福祉大学言語聴覚学科 3名様 長崎リハビリテーション学院言語療法学科 1名様 佐賀銀行 6名様 緑生館 12名様
  - 【オークス】 長光園 7名様 ナーシングホーム華 2名様
  - 【清流苑】 佐賀大学医学部 3名様 西九州大学社会福祉学科学科 4名様 神崎清明高校 3名様 佐賀女子高校 4名様
  - 【からつ・糸】 大分県医療生活協同組合大分地区本部 1名様 相知小児科 2名様 深江野町 3名様 糸島市民委員 7名様 (※) 糸島市児童生員 25名様 (※) 合同病院 11名様 (※) 今津特別支援学校 3名様 (※) 玄海町健康課の会 30名様 (※) さくらのクリニック 3名様 (※) 毎月福祉社 2名様 (※) フレスコ福岡 1名様 (※) 糸島市こども課 3名様 (※) 多岐生業事務所チャイルドホート 1名様

- 実習生受入**
- 【子ども】 西九州大学リハビリテーション学科学科 3名様 牛津高校 2名様 佐賀歯科衛生専門学校 29名様
  - 【オークス】 西九州大学社会福祉学科学科 2名様
  - 【清流苑】 西九州大学社会福祉学科学科 3名様
  - 【からつ・糸】 西九州大学リハビリテーション学科学科 1名様 西九州大学社会福祉学科学科 2名様 (※) 白川リハビリテーション学科学科 1名様
  - 【向・わ】 西九州大学社会福祉学科学科 2名様

見どころ

木々の緑のまぶさと共に、新探検員の方が職場に新たな風を吹き込んでくれる季節となりました。今も「新しい」ということは、気分が爽やかですね。本号は、表紙の菓の菜の菜が始まり、新探検員紹介、TOPICS、FOCUS 等等、花と笑顔が満載です! 私も読んでいて、さすがに気分になりました。今年度も「学園タイムス」をよろしくお願いたします。

